

活動No	H23-③	実施河川レンジャー	溝延河川レンジャー
活動名	河川内竹林観察 (個人活動)		
実施日	平成23年6月1日(水) 9:00～9:30 平成23年6月4日(土) 9:00～9:30 平成23年6月9日(木) 9:00～9:30		
実施場所	名張川河川敷 (大屋戸地区他)		
活動目的	バンブーバスターの実施されている竹林で、竹の生育を調査し、竹林管理の問題点を考察する。		
参加者	個人活動のため、参加者なし。		
活動内容	<p>①観察区域での竹の子発芽確認</p> <p>バンブーバスターを実施した竹林で新たな竹の発芽数を確認し、間引きすべき本数の確認を行った。</p> <hr/> <p>②バスター実施跡の竹林推移観察</p> <p>バンブーバスターを実施した跡地がどういう状況になっていくか確認を行った。</p> <hr/> <p>③調査結果とりまとめ</p> <p>観察区域での竹の子発芽調査及びバンブーバスター跡地での竹再発生状況の調査を行い、竹再発生状況の調査のとりまとめを行った。</p>		
講師	なし		
感想考察	<p>河川河畔の竹林が管理不在状況にあり、景観・防犯・堤防保護の観点より問題が生じており、最近バンブーバスター事業で竹林の伐採がなされているが、対症療法的な措置で、永続的で安定的な竹林管理を行なうことができないか、竹林の竹の子発生の状況について観察を行いました。</p> <p>調査区間は竹の伐採されている場所と竹の生育している場所の2ヶ所で調査を行いました 1区間2m四方4㎡の面積内に何本の竹の子が発芽するか観測しました。</p> <p>結果的に、3本と5本の竹の子の発芽があり、1㎡あたり1本の竹の子が発芽したことが判明しました。竹の子の生長は6年で成長がとまり、それ以後は老化するとのことで、健全な竹の生育を持続するには、適当な竹の間引きをおこなわなければなりません。石油製品万能の時代で、一昔前の竹材利用が激減し、その余波が河畔の竹林環境に影響を与えています。また、河畔での民有地と国有地の区画が漠然としている地域もあり、管理責任者の不明確な状況が環境の悪化に一層拍車をかけていると思います。</p> <p>竹の子採集の機会を一般市民に与え、伐採材の処分作業の削減に取り組むことにより、省エネルギーでの竹林管理ができるのではないかと考えます。</p>		

活動状況

事前調査：観測区域①状況 (5月13日)



・竹の子発生なし

事前調査：観測区域②状況 (5月13日)



・竹の子発生なし

事前調査：観測区域①状況 (5月21日)



・竹の子発生なし

事前調査：観測区域②状況 (5月21日)



・竹の子発生なし

事前調査：観測区域①状況 (5月26日)



・竹の子発生なし

事前調査：観測区域②状況 (5月26日)



・竹の子発生なし

活動状況

バンブーバスター跡地状況 (6月1日)



- ・観測区域周辺に、竹の子の発生を確認

観測区域①状況 (6月1日)



- ・観測区域①には、竹の子の発生なし

観測区域②状況 (6月1日)



- ・観測区域②には、竹の子の発生なし

バンブーバスター跡地状況 (6月4日)



- ・バスター後の跡地に、竹の子の群生を確認

活動状況

観測区域①状況 (6月4日)



観測区域①に、竹の子1個発生

観測区域②状況 (6月4日)



観測区域②には、竹の子の発生なし

バンブーバスター跡地状況 (6月9日)



・バスター後の竹林群生部が成長

観測区域①状況 (6月9日)



・観測区域①に、竹の子3個発生

観測区域②状況 (6月9日)



・観測区域②に、竹の子5個発生

活動状況

バンブーバスター跡地状況 (6月9日) ※事後調査



・バスター後の竹林が再繁茂

調査区域図

